

# 火災予防

回覧

夏といえば、レジャーの季節です。バーベキューや花火など、屋外で火を使用する機会が増えることが予想されます。花火、カセットこんろなどの製品は、使い方を誤ると大きな事故につながる可能性がありますので製品を正しく使用し、安全に楽しく夏を過ごしましょう。

## ① キャンプやバーベキューでの火災事故に注意しましょう

キャンプやバーベキューなどで火傷をしたり、火が着衣に燃え移るといった事故が起きています。ガストーチ、着火剤、カセットこんろなどを使用する際は、下記の点に注意しましょう。

### 注意事項

- (1) カセットこんろのサイズにあった調理器具を使用する。
- (2) 建物や可燃物の近くでガスバーナーを使用しない。
- (3) ガスバーナーを使用した後は、安全な場所で冷ます。
- (4) 風の強いときは、屋外での火気の使用は中止する。
- (5) 使用前に取扱説明書を十分に確認する。
- (6) ゼリー状の着火剤を継ぎ足して使用しない。
- (7) 消毒用アルコールは火の近くで使用しない。
- (8) 着衣に着火したら、慌てて動き回ったりせず、地面に倒れ転がり、消火する。
- (9) 消火用の水バケツを付近に用意する。



カセットこんろに合わない調理器具の使用や、並べて使用した場合、カセットボンベ部分が熱せられ破裂することがあります。



## ② 花火はルールとマナーを守って楽しく遊びましょう

夏の風物詩といえば「花火」、子どもたちにとっても楽しみな季節となりました。しかし、気軽に楽しめる花火も遊び方を間違えると火災や事故に繋がりがねません。火災や事故を起こさないよう十分に注意し、楽しい夏の思い出にしましょう。

### 注意事項

- (1) 花火の説明書をよく読み、注意事項を必ず守る。
- (2) 風の強いときは、花火をしない。
- (3) 水バケツを用意し、使った花火は必ず水につける。  
また、ゴミは放置せずに持ちかえる。
- (4) 子供だけでなく、大人と一緒に遊ぶ。
- (5) 人の迷惑にならない場所と時間を選ぶ。
- (6) 燃えやすいものがなく、広くて安全な場所を選ぶ。
- (7) 公園など、火気使用が禁止されている場所では花火をしない。



### ③ 高温になる車内にスプレー缶やガスライターを放置するのは危険です

夏に自動車に乗って行楽地に出かける人も多いと思います。そんな皆さんに注意していただきたいのが車内に放置されたスプレー缶やガスライターの事故です。

真夏の車内は、想像以上の暑さになります。国民生活センターが行った調査では、炎天下の舗装された駐車場に自動車を置いた場合、車内温度は約60℃、直射日光の影響を受けるダッシュボードの表面は90℃近くまで上昇することが確認されています。

このような高温になった車内にスプレー缶やガスライターを放置すると、スプレー缶やガスライターが破裂し、火災事故になる場合があります。また、リチウムイオン電池などを含む電子機器（スマートフォンなど）でも過熱による火災事故が起こっています。

車を離れる際には、車内にスプレー缶などだけでなく、電子機器を放置していないかも確認しましょう。

### ④ 住宅における電気火災の注意

近年では、電気器具類を発火源とする住宅火災の件数が増加傾向にあり、総務省消防庁が調査・分析した結果、主な出火原因は下記のとおりです。

- 1 モバイルバッテリーなどの繰り返し使える充電式電池による出火
- 2 電子レンジなどの家電製品を不適切な使用による出火
- 3 多くの家電製品に共通する、プラグ・コード類による出火
- 4 トラッキングによる出火

電気器具類には、常に火災のリスクが潜んでいることを忘れずに適切な使用・維持管理に努めましょう。

詳しくは、右のQRコードからご確認ください。⇒



### ⑤ お盆の時期に要注意！仏壇からの出火に注意

お盆は先祖を供養する大切な行事です。この時期は、お墓や仏壇などでローソクや線香を焚いたり、火を取り扱う機会が増えます。ちょっとした不注意から火災を発生させないように今一度下記の点に注意しましょう。

#### 注意事項

#### 1 仏壇、お墓参りでの注意点

- (1) ローソクの火をつけたままその場を離れない。
- (2) ローソクや線香の周りに燃えやすいものを置かない。
- (3) ローソクはしっかり燭台に刺し、不安定な状態で使用しない。
- (4) 燭台に水分が残ったまま使用しない。
- (5) 座布団や敷物などを防災製品にする。
- (6) お墓掃除ででた刈草やごみは焼却せずに持ち帰る。



#### 2 ローソクの火が飛び現象

燭台に水分が残ったまま使用すると燃え尽きる際に溶けたロウの膜に閉じ込められた水分が沸騰し、火のついた芯を飛ばすことが稀にあります。

燭台を洗浄した際は、しっかりと乾燥させてから使用して下さい。